



萩原広道『源氏物語評釈』の版木と出版

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-08-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 青木, 賜鶴子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00005321

萩原広道『源氏物語評釈』の版本と出版

青木 賜鶴子

先般、大阪府立大学上方文化研究センター収蔵の版本八〇数枚の中に、萩原広道『源氏物語評釈』の版本が含まれていることを確認した。平成二十年（二〇〇八）は源氏物語が記録の上ではじめて確認できる寛弘五年（一〇〇八）から一千年目にあたり、さまざまな催しが行われていたが、十二月初めに報道された『源語梯』の版本発見のニュースにいわば触発される形で、本学でも報道発表することになった。源氏物語関連の版本としては『源語梯』に続いて二番目、萩原広道『源氏物語評釈』としては初めての報道であった。この版本から専門家に搾り出してもらい、搾り出したものとともに後日一般公開する予定であるが、ここでは、版本の現状を報告するとともに、版本からうかがえる出版事情についても付言しておきたいと思う。

一 萩原広道『源氏物語評釈』のこと

萩原広道（一八一五―一八六三）は備前（岡山県）の出身で、大坂で活躍した。滑稽本『あしの葉わけ』（一八四五年）、語学書『てにをは係辞弁』（一八四六年序、一八四九年刊）、『小夜時雨』（一八四九年刊）、辞書『古言訳解』（一八五一年刊）、中国小説の翻訳『通俗好述伝』などの著作が知られ、『源氏物語評釈』はその代表作とされる。病のため「花宴」巻までで頓挫してしまっただが、ことばの「釈」が中心であった。それまでの注釈書とは違い、物語の構想や流れ、照応関係などについて初めて本格的に論じた注釈書であり、江戸期源氏物語研究の最高峰として高く評価され、現在も参照されることの多い注釈書である。

『源氏物語評釈』（以下『評釈』と略記する場合がある）の刊行は、夕顔巻までの初版八冊本が嘉永七年（一八五四）であるが、その出版をめぐる事情については、近年、広道の書簡が紹介され、次第に明らか

かになってきている。嘉永四年から『評釈』の出版を志していたが、出版を引き受けてくれる本屋がなかなか見つからず、出資者を募るため奔走したこと、結局蔵板本として自費出版の形で出したこと、当初は全七十冊の予定であったこと、版木彫刻の刻料について板木屋は当初「惣論壹丁 拾式匁づ、／本文壹丁 拾五匁づ、／語尺壹丁 廿匁づ、／首書細註御書下ゲ 廿五匁づ、」のように彫刻の難易により差をつけるつもりであったが、結局一丁あたり一律金一分としたこと、等々である。版木を実際に見ると、注釈の部分は特に細かい文字が丹念に彫られている、難易により一丁あたりの単価に差をつけたくなる気持ちもわかるように思う。

花宴巻までの十三冊本は文久元年（一八六一）に出したが、中風のため版下を書けず以下は別人の手になると断っている（「語釈二二端一」）。広道が歿したのは刊行の二年後である。

版本の現存状況から見て、『評釈』はその後も版元を変えて何度も出版されたようだが、最後の版は明治初期と推定される。版は、別稿で述べたように「余積」四十・四十一丁のみ八冊本と十三冊本で異なるが、ほかは、当初の版木が最後まで使われたようだ。

最後の版元の一人である（実質的な版元であろう）松村九兵衛（敦賀屋九兵衛）氏は、貞享三年（一六八六）創業の大坂を代表する大手版元であるが、そのご子孫が、本学の前身である府立大阪女子大学の

学生であった約五十年前、松村家から直接版木の寄贈を受けたとのことである。別の見方をすれば、現存する種々の版本のうち、「松村九兵衛」の名で刊行された版が最終版であることが、松村家から寄贈されたこの版木によってわかるといえることになる。

二 版木の現状

確認した版木は、四六枚九一面³。巻末の「別表」は、確認した版木の内訳と分量等を一覧にしたものであるが、見るように、首上（序文・惣論上）と語釈二が含まれないだけで、各巻にわたっていることがわかる。十三冊本全体の丁数は五五五丁であるから、九一面（九一丁）は全体の約一六・四パーセントにあたる。

版木の大きさは、縦二一・九〜二三・六（平均二二・五）センチ、横四三・六〜四六・六（平均四五・二）センチ、厚さ一・四〜二・〇（平均一・七）センチ。「帯木四十六・四十七」には、歪みを防ぐための端食（はしばみ）がついている。端食の寸法は、縦二四・二センチ、横中二センチ、厚さ三・二センチである。

匡郭は、縦二〇・八〜二二・一（平均二二・五）センチ、横一五・三〜一五・九（平均一五・七）センチ、匡郭全体の横の長さは三二・二〜三三・〇（平均三二・七）センチ。現存する版本の匡郭と比べてみると⁴

横の長さは版木の方が長い場合もあるが、縦の長さは、版木の方がおよそ二〜三ミリ短くなっている。

「余積目三」をのぞくすべての版木の両面が使われ、おおむねは連続する丁が彫られているが、「桐壺三十一終」の裏には「語積十一」、「空蟬一」の裏には「語積廿四」が彫られている。「語積十一」は桐壺巻「語積」の最後、「語積廿四」は空蟬巻「語積」の最初である。

これには種々の理由が考えられると思うが、一つの可能性として、広道が巻ごとのまとまりに従って版下を書き、書いたものから彫り師に彫らせていたことを物語るとも考えられるのではないだろうか。

なお「語積廿四」ウは、版本では匡郭の上に縦約二・四センチ、横約六・一センチの単枠をこしらえて注を施すが（図2参照）、版木の縦の長さは匡郭とほぼ同じでほとんど余裕がなく（上部の余裕は〇・八センチ）、この部分は版木の上に継ぎ足す形で埋木されたようだ。現在その埋木部分は失われ、廿四ウの匡郭右端から〇・五センチ、左端から六・四センチの位置に、縦〇・八センチ、横八・六センチの切り欠きのみが残る。参考のため今回摺り出したものの図版を載せておく（図3）。

ちなみに「帚木四十四」オにも、匡郭の上に縦約一・六センチ、横約三・八センチの単枠があるが、この丁の版木は他よりも縦の長さに余裕があり、この単枠はもとの版木に彫られていて、現在も残っている（図1参照）。

また、「末摘花十五・十六」には埋木が施されている。「末摘花十五」オは、上から九・二センチ、横から三・一センチの部分に、縦六・六センチ×横七・八センチの埋木、その裏側にあたる「末摘花十六」オは、上から七・九センチ、横から三センチの部分に、縦五・一センチ×横六・三センチの埋木がある。版本では埋木部分の見分けがつかないが、現在埋木部分は周囲よりもやや浮き上がった状態になっており、再摺りの墨の色がやや濃くなっている（図4〜7参照）。

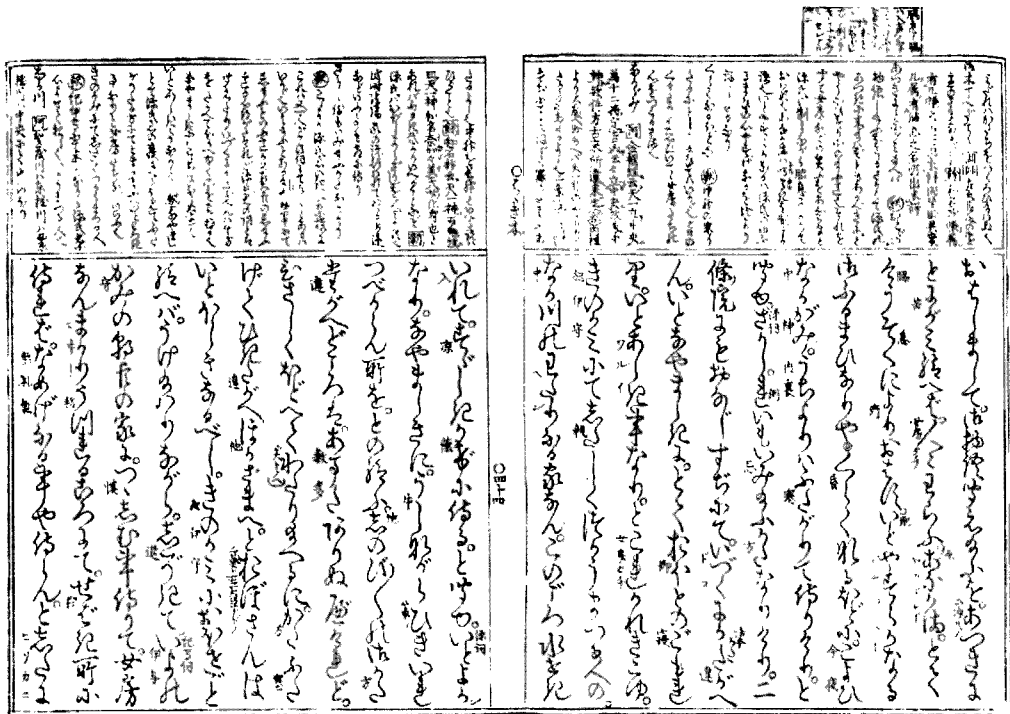
以上のように、四十六枚という大量の版木が確認されたことで、版木が彫られた順序、ひいては原稿が書かれた順序を物語るかと思われるものもあり、その意味でも版木の価値は高いといえよう。

注

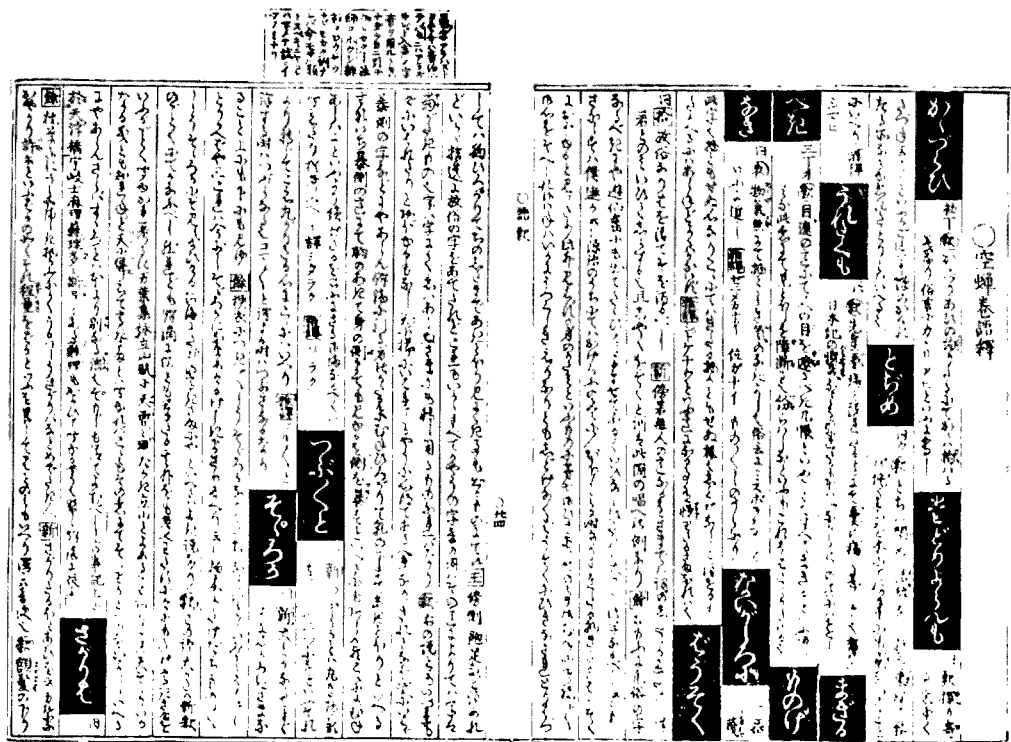
(1) 森川彰氏「源氏物語評釈」の出版―広道書簡―（『混沌』五号、一九七八年九月）、森川彰氏・多治比郁夫氏「源氏物語評釈」の出版事情―河内屋茂兵衛あて萩原広道書簡―（『大阪府立図書館紀要』第二五号、一九八九年三月）。

(2) 「萩原広道「源氏物語評釈」初版八冊本から十三冊本へ」（『百舌鳥園文』第二〇号、二〇〇九年三月）。初版八冊本では、空蟬巻余積四十ウ・四十一オに、朱と墨二色刷りの「中河の家の図」が見開きで入れられ、全五七丁であるが、後の十三冊本では、図はなく、二丁分少ない五六丁である。

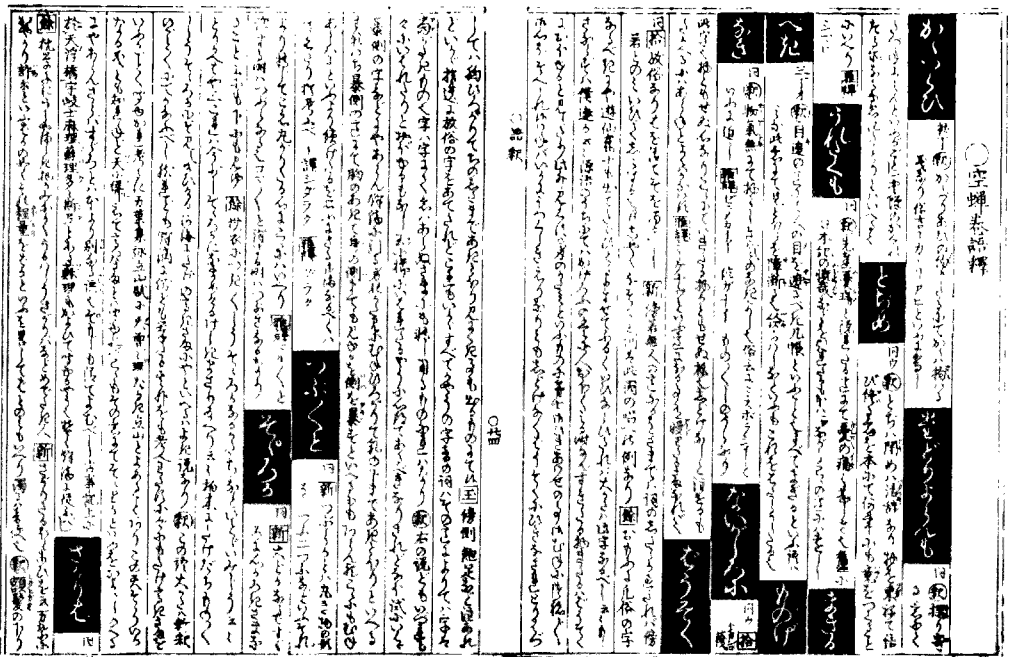
- (3) 報道発表の時点で確認していた版本は四五枚であったが、その後、別置されていた版本の中に『評釈』が一枚含まれていることを確認した。
- (4) 注(2)の別稿中に、大阪府立大学学術情報センター図書館所蔵の五種の版について、匡郭の寸法を示しておいた。



〔図1〕「帯木」第44丁（版本から合成）



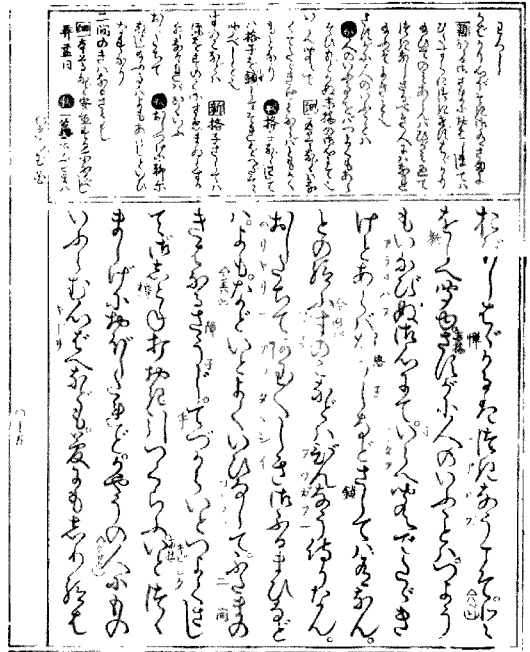
〔図2〕「語釈」第24丁（版本から合成）



〔図3〕「語釈」第24丁（再摺り）



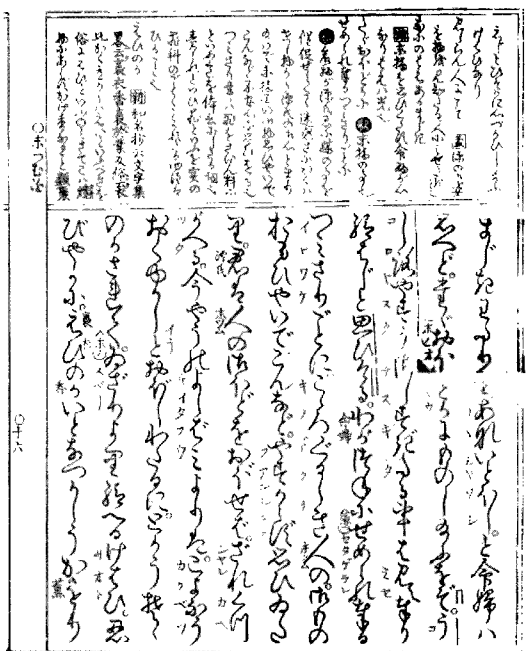
〔図5〕「末摘花」第15丁オ（版本）



〔図4〕「末摘花」第15丁オ（再摺り）



〔図7〕「末摘花」第16丁オ（版本）



〔図6〕「末摘花」第16丁オ（再摺り）

表1

〔別表〕 確認した版木とその分量

萩原広道「源氏物語評釈」の版木と出版

5	4										3	2						1	冊				
空蟬	帯木										桐壺	首下 (惣論下・凡例)						首上 (序文・惣論上)	巻				
端一〇二、 一〇三	端一〇五、 一〇六、一〇七										端一〇二、 一〇三	二 四十〇八十						序一〇八、目 録、一〇三〇 九	内容				
14	69										33	43						48	総 数				
1	6										2	3						0	版 末 枚 数				
1	12										3	6						0	摺 罫 枚 数				
うつけみ一 (裏は語釈廿四)	はき木 六十三	はき木 五十四	はき木 五十五	はき木 四十六	はき木 四十七	はき木 四十八	はき木 四十九	はき木 五十	はき木 五十一	はき木 五十二	はき木 五十三	はき木 五十四	はき木 五十五	はき木 五十六	はき木 五十七	はき木 五十八	はき木 五十九	はき木 六十	はき木 六十一	はき木 六十二	はき木 六十三	確認した版木 (柱刻)	
	六十四終																					版木の寸法 (縦×横×厚さ) cm	
二二・二二×四五・〇×一・八	二二・九×四四・八×一・七	二二・一〇×四三・九×一・九	二二・一〇×四五・五×一・五	二二・一〇×四五・五×一・五	二二・一〇×四五・五×一・五	二二・一〇×四五・五×一・五	二二・一〇×四五・五×一・五	二二・一〇×四五・五×一・五	二二・一〇×四五・五×一・五	二二・一〇×四五・五×一・五	二二・一〇×四五・五×一・五	二二・一〇×四五・五×一・五	二二・一〇×四五・五×一・五	二二・一〇×四五・五×一・五	二二・一〇×四五・五×一・五	二二・一〇×四五・五×一・五	二二・一〇×四五・五×一・五	二二・一〇×四五・五×一・五	二二・一〇×四五・五×一・五	二二・一〇×四五・五×一・五	二二・一〇×四五・五×一・五		版木の寸法 (縦×横×厚さ) cm
二二・三×一五・八	二二・四×一五・八	二二・四×一五・八	二二・四×一五・八	二二・四×一五・八	二二・四×一五・八	二二・四×一五・八	二二・四×一五・八	二二・四×一五・八	二二・四×一五・八	二二・四×一五・八	二二・四×一五・八	二二・四×一五・八	二二・四×一五・八	二二・四×一五・八	二二・四×一五・八	二二・四×一五・八	二二・四×一五・八	二二・四×一五・八	二二・四×一五・八	二二・四×一五・八	二二・四×一五・八		才(縦×横) cm
二二・三×一五・七	二二・四×一五・八	二二・四×一五・七	二二・四×一五・七	二二・四×一五・七	二二・四×一五・七	二二・四×一五・七	二二・四×一五・七	二二・四×一五・七	二二・四×一五・七	二二・四×一五・七	二二・四×一五・七	二二・四×一五・七	二二・四×一五・七	二二・四×一五・七	二二・四×一五・七	二二・四×一五・七	二二・四×一五・七	二二・四×一五・七	二二・四×一五・七	二二・四×一五・七	二二・四×一五・七		ウ(縦×横) cm
三二・一・八	三二・一・九	三二・一・八	三二・一・八	三二・一・八	三二・一・八	三二・一・八	三二・一・八	三二・一・八	三二・一・八	三二・一・八	三二・一・八	三二・一・八	三二・一・八	三二・一・八	三二・一・八	三二・一・八	三二・一・八	三二・一・八	三二・一・八	三二・一・八	三二・一・八		郭 全体(横) cm

表2

萩原広道『源氏物語評釈』の版本と出版

8		7		6		冊
末摘花		若紫		夕顔		巻
端一〇二、 一〇四十一		端一〇二、 一〇五十五		端一〇二、 一〇五十六		内容
43		57		58		総 数
12		4		2		版 木 枚 数
24		8		4		摺 面 の 数
						確認した版本 (柱刻)
						版木の寸法 (縦×横×厚さ) cm
						才(縦×横) cm
						ウ(縦×横) cm
						郭 全体(横) cm
末つむ花 一	末つむ花 一	若むらさき 五十一	若むらさき 五十一	夕かほ 五十一	夕かほ 五十一	
末つむ花 二	末つむ花 二	若むらさき 五十二	若むらさき 五十二	夕かほ 五十二	夕かほ 五十二	
末つむ花 三	末つむ花 三	若むらさき 五十三	若むらさき 五十三	夕かほ 五十三	夕かほ 五十三	
末つむ花 四	末つむ花 四	若むらさき 五十四	若むらさき 五十四	夕かほ 五十四	夕かほ 五十四	
末つむ花 五	末つむ花 五	若むらさき 五十五	若むらさき 五十五	夕かほ 五十五	夕かほ 五十五	
末つむ花 六	末つむ花 六	若むらさき 五十六	若むらさき 五十六	夕かほ 五十六	夕かほ 五十六	
末つむ花 七	末つむ花 七	若むらさき 五十七	若むらさき 五十七	夕かほ 五十七	夕かほ 五十七	
末つむ花 八	末つむ花 八	若むらさき 五十八	若むらさき 五十八	夕かほ 五十八	夕かほ 五十八	
末つむ花 九	末つむ花 九	若むらさき 五十九	若むらさき 五十九	夕かほ 五十九	夕かほ 五十九	
末つむ花 十	末つむ花 十	若むらさき 六十	若むらさき 六十	夕かほ 六十	夕かほ 六十	
末つむ花 十一	末つむ花 十一	若むらさき 六十一	若むらさき 六十一	夕かほ 六十一	夕かほ 六十一	
末つむ花 十二	末つむ花 十二	若むらさき 六十二	若むらさき 六十二	夕かほ 六十二	夕かほ 六十二	
末つむ花 十三	末つむ花 十三	若むらさき 六十三	若むらさき 六十三	夕かほ 六十三	夕かほ 六十三	
末つむ花 十四	末つむ花 十四	若むらさき 六十四	若むらさき 六十四	夕かほ 六十四	夕かほ 六十四	
末つむ花 十五	末つむ花 十五	若むらさき 六十五	若むらさき 六十五	夕かほ 六十五	夕かほ 六十五	
末つむ花 十六	末つむ花 十六	若むらさき 六十六	若むらさき 六十六	夕かほ 六十六	夕かほ 六十六	
末つむ花 十七	末つむ花 十七	若むらさき 六十七	若むらさき 六十七	夕かほ 六十七	夕かほ 六十七	
末つむ花 十八	末つむ花 十八	若むらさき 六十八	若むらさき 六十八	夕かほ 六十八	夕かほ 六十八	
末つむ花 十九	末つむ花 十九	若むらさき 六十九	若むらさき 六十九	夕かほ 六十九	夕かほ 六十九	
末つむ花 二十	末つむ花 二十	若むらさき 七十	若むらさき 七十	夕かほ 七十	夕かほ 七十	
末つむ花 二十一	末つむ花 二十一	若むらさき 七十一	若むらさき 七十一	夕かほ 七十一	夕かほ 七十一	
末つむ花 二十二	末つむ花 二十二	若むらさき 七十二	若むらさき 七十二	夕かほ 七十二	夕かほ 七十二	
末つむ花 二十三	末つむ花 二十三	若むらさき 七十三	若むらさき 七十三	夕かほ 七十三	夕かほ 七十三	
末つむ花 二十四	末つむ花 二十四	若むらさき 七十四	若むらさき 七十四	夕かほ 七十四	夕かほ 七十四	
末つむ花 二十五	末つむ花 二十五	若むらさき 七十五	若むらさき 七十五	夕かほ 七十五	夕かほ 七十五	
末つむ花 二十六	末つむ花 二十六	若むらさき 七十六	若むらさき 七十六	夕かほ 七十六	夕かほ 七十六	
末つむ花 二十七	末つむ花 二十七	若むらさき 七十七	若むらさき 七十七	夕かほ 七十七	夕かほ 七十七	
末つむ花 二十八	末つむ花 二十八	若むらさき 七十八	若むらさき 七十八	夕かほ 七十八	夕かほ 七十八	
末つむ花 二十九	末つむ花 二十九	若むらさき 七十九	若むらさき 七十九	夕かほ 七十九	夕かほ 七十九	
末つむ花 三十	末つむ花 三十	若むらさき 八十	若むらさき 八十	夕かほ 八十	夕かほ 八十	
末つむ花 三十一	末つむ花 三十一	若むらさき 八十一	若むらさき 八十一	夕かほ 八十一	夕かほ 八十一	
末つむ花 三十二	末つむ花 三十二	若むらさき 八十二	若むらさき 八十二	夕かほ 八十二	夕かほ 八十二	
末つむ花 三十三	末つむ花 三十三	若むらさき 八十三	若むらさき 八十三	夕かほ 八十三	夕かほ 八十三	
末つむ花 三十四	末つむ花 三十四	若むらさき 八十四	若むらさき 八十四	夕かほ 八十四	夕かほ 八十四	
末つむ花 三十五	末つむ花 三十五	若むらさき 八十五	若むらさき 八十五	夕かほ 八十五	夕かほ 八十五	
末つむ花 三十六	末つむ花 三十六	若むらさき 八十六	若むらさき 八十六	夕かほ 八十六	夕かほ 八十六	
末つむ花 三十七	末つむ花 三十七	若むらさき 八十七	若むらさき 八十七	夕かほ 八十七	夕かほ 八十七	
末つむ花 三十八	末つむ花 三十八	若むらさき 八十八	若むらさき 八十八	夕かほ 八十八	夕かほ 八十八	
末つむ花 三十九	末つむ花 三十九	若むらさき 八十九	若むらさき 八十九	夕かほ 八十九	夕かほ 八十九	
末つむ花 四十	末つむ花 四十	若むらさき 九十	若むらさき 九十	夕かほ 九十	夕かほ 九十	
末つむ花 四十一	末つむ花 四十一	若むらさき 九十一	若むらさき 九十一	夕かほ 九十一	夕かほ 九十一	
末つむ花 四十二	末つむ花 四十二	若むらさき 九十二	若むらさき 九十二	夕かほ 九十二	夕かほ 九十二	
末つむ花 四十三	末つむ花 四十三	若むらさき 九十三	若むらさき 九十三	夕かほ 九十三	夕かほ 九十三	
末つむ花 四十四	末つむ花 四十四	若むらさき 九十四	若むらさき 九十四	夕かほ 九十四	夕かほ 九十四	
末つむ花 四十五	末つむ花 四十五	若むらさき 九十五	若むらさき 九十五	夕かほ 九十五	夕かほ 九十五	
末つむ花 四十六	末つむ花 四十六	若むらさき 九十六	若むらさき 九十六	夕かほ 九十六	夕かほ 九十六	
末つむ花 四十七	末つむ花 四十七	若むらさき 九十七	若むらさき 九十七	夕かほ 九十七	夕かほ 九十七	
末つむ花 四十八	末つむ花 四十八	若むらさき 九十八	若むらさき 九十八	夕かほ 九十八	夕かほ 九十八	
末つむ花 四十九	末つむ花 四十九	若むらさき 九十九	若むらさき 九十九	夕かほ 九十九	夕かほ 九十九	
末つむ花 五十	末つむ花 五十	若むらさき 一百	若むらさき 一百	夕かほ 一百	夕かほ 一百	

表4

*1 初版八冊本では空蟬巻余積に図があるため全五七丁。後の十三冊本では図はなく、五六丁。注(2)参照。

萩原広道『源氏物語評釈』の版本と出版

計	13	12	冊
	余積二	余積一	巻
	目録一、二、 一、三十三	目録一、三、 一、五十四	内容
555	35	56 *1	数 丁
46	4	7	枚数 版木
91	8	13	の 数 摺出
	若余尺 二ノ三 〃 二ノ四 末余尺 二ノ十三 〃 二ノ十四 紅余尺 二ノ廿五 〃 二ノ廿六 花余尺 二ノ三十一 〃 二ノ三十三終	夕余尺 四十七 〃 四十八 夕余尺 四十九 〃 五十 夕余尺 四十五 〃 四十六 夕余尺 四十七 〃 四十八 夕余尺 四十九 〃 五十 帯余尺 卅七 〃 卅八 帯余尺 卅五 〃 卅六 帯余尺 卅四 〃 卅五 余尺目 三 (片面のみ)	確認した版木 (注刻)
	二二・一×四五・三×一・五 二二・三×八×四六・四×一・八 二二・五×四五・五×一・八 二二・六×四三・八×一・八 二二・〇×四三・八×一・七 二二・〇×四五・八×一・七 二二・七×四五・二×一・六 二二・三×四五・五×一・七 二二・三×四五・三×一・七 二二・二×四五・五×一・七 二二・五×四三・八×一・五	(縦×横×厚さ) cm	版木の寸法
	二二・四×一五・五 二二・三×一五・五 二二・〇×一五・七 二二・一×一五・六 二二・五×一五・七 二二・五×一五・六 二二・七×一五・六 二二・七×一五・六 二二・〇×一五・五 二二・九×一五・四 二二・〇×一五・五 二二・〇×一五・五 二二・〇×一五・五 二二・六×一五・六 二二・七×一五・五 二二・七×一五・五 二二・七×一五・六 二二・八×一五・五 二二・七×一五・六 二二・七×一五・六 二二・五×一五・六 二二・六×一五・八	才(縦×横) cm	匡
	二二・三×一五・五 二二・二×一五・五 (不明) 二二・一×一五・七 二二・五×一五・六 二二・五×一五・六 二二・七×一五・六 二二・七×一五・六 二二・〇×一五・五 二二・〇×一五・五 二二・〇×一五・五 二二・九×一五・五 二二・〇×一五・五 二二・〇×一五・五 二二・六×一五・七 二二・八×一五・五 二二・七×一五・六 二二・七×一五・六 二二・五×一五・六 二二・五×一五・六 二二・六×一五・三	ウ(縦×横) cm	郭
	三三二・五 三三二・四 三三二・六 三三二・七 三三二・七 三三二・七 三三二・六 三三二・六 三三二・四 三三二・二 三三二・五 三三二・五 三三二・七 三三二・六 三三二・五 三三二・五 三三二・六 三三二・六 三三二・六 三三二・八	全体(横) cm	郭